

廃炉・汚染水対策チーム会合事務局会議 放射性廃棄物処理・処分分野の資料に おける数値の集計誤りについて

2019年12月19日
東京電力ホールディングス株式会社

1. 集計誤りの内容

- 2019年11月28日の廃炉・汚染水対策チーム会合第72回事務局会議において公表した放射性廃棄物処理・処分分野の資料において、「水処理二次廃棄物の管理状況」の数値の一部(保管量の内訳)に誤りがあることがわかった。

◇多核種除去設備等保管容器の基数の正誤表

	公表済みの保管量(誤)	正しい保管量
既設	1,643基	1,660基
増設	1,599基	1,582基

誤りの内容: 既設分17基少なく、増設分を17基多く記載していた。

- 元のデータ(数値)に誤りはなかったが、データを転記する時の計算に誤りがあった。

2. 誤りの原因(1/2)

2/5

- 多核種除去設備等保管容器は、第二施設と第三施設で保管している。
- 保管基数は、発生場所(既設ALPS又は増設ALPS)に応じた受入基数と、第二施設から第三施設に移動した基数から計算している。
- 第二施設から第三施設に移動した基数について、発生場所(既設ALPS又は増設ALPS)に応じて分けた基数を使用していなかったため、誤りに至った。

	既設分積算 受入基数	増設分積算 受入基数	移動基数 (第二→第三)		移動基数 (既設分)	移動基数 (増設分)
第二施設	A基	B基	C基	➡	C1基	C2基
第三施設	D基	E基	—		—	—

(移動基数の内訳)

上記表に基づき以下のように計算
既設: $A + D - C$ 基
増設: $B + E$ 基



正しくは、
既設: $A + D - C1$ 基
増設: $B + E - C2$ 基

集計誤りのイメージ図

3. 誤りの原因(2/2)

◇既設分と増設分を分けずに管理していた理由

- ・第二施設から第三施設への保管容器の移動は、2016年12月、2018年8月と9月に実施。
 - ・**2016年12月**に移動した時は、全て既設分。
 - ✓ 計算シートでは、移動した基数は全て既設分として計算。
 - ・**2018年8月**に移動した時は、既設分と増設分が存在。
 - ✓ 既設分と増設分が存在するのは、内容物が炭酸塩沈殿スラリーのみ。
 - ✓ 炭酸塩沈殿スラリーの計算シートを見直す必要があった。
(**既設分と増設分を分ける**)
 - ✓ 炭酸塩沈殿スラリー以外は、計算シート上、既設分のみ又は増設分のみの項目名称となっており、分ける必要がなかった。
- ⇒炭酸塩沈殿スラリーの計算シートを見直す(**既設分と増設分に分ける**)という認識に至らなかったと思われる。

3. 誤りの発生した時期

- 炭酸塩沈殿スラリーを保管した容器を、第二施設から第三施設に移動する作業は、2018年8月～9月に行われていたため、2018年9月と10月の資料の集計において誤りが発生し、その後の資料は誤った数値を元に計算しているため、全て誤った数値となっている。
- 集計を誤った基数は、9月の資料で8基、10月の資料で9基であるため、9月の資料で8基分、10月以降の資料で17基(8基+9基)分誤って集計していた。

◇発生時期の正誤表

		2018年8月		2018年9月		2018年10月	
		保管量	増減	保管量	増減	保管量	増減
既設	公表済	1,497基	+10基	1,501基	+4基	1,514基	+13基
	正	—	—	1,509基	+12基	1,531基	+23基
増設	公表済	1,303基	+16基	1,330基	+27基	1,359基	+29基
	正	—	—	1,322基	+19基	1,342基	+19基

4. 対策

- 第二施設から第三施設に移動した基数を、既設ALPS分と増設ALPS分に分けて計算するように計算シートを変更した。
- 前月からの増加基数については、元のデータを使用し、その数をチェックする。
- 増加基数については、ALPSの運転状況を確認し、妥当性をチェックする。